

発表要旨・討論の概要

2. 調査場所(宮城県玉造郡鳴子町鬼首)。時日(昭和37年8月6日から1週間)。方法(訪問面接談話法)。

3. 地域社会の実態 ①寒湯(ぬるゆ), 岩入(がにゆう), 田野(たの), 小向(こむかい)等の部落のもの46名が対象になった。②間歇温泉の所在地。へき地法適用。

4. 調査結果を次の如く分析した。①就職地, ②その開始期, ③就職の仲介, ④その前の職業, ⑤仕事の種類 ⑥就職期の意志, ⑦希望の有無, ⑧継続及び変更の意志 ⑨満足さの程度, ⑩不満の内容, ⑪俸給と待遇の実態, ⑫家人の意識, 不安, 希望等の実態, ⑬離郷への態度。

643 中学生の職業観と性格

○広井 甫(近畿大学) 増田幸一(成蹊大学)

1. 目的 現在試作中の職業観調査目録により測定された中学生の職業観と, YG 性格検査の結果とを比較する。

2. 対象 中都市近郊住宅地域の中学校の第2学年男子生徒129名, 女子生徒107名, 計236名を対象とした。

3. 方法 同一生徒に上記2種の調査, 検査を実施(昭和38年5月)。調査目録の各尺度ごとに高得点者群と低得点者群とを選び出し, YG 性格検査の各尺度における両群間の差異について検討した。

4. 結果 YG 性格検査の各尺度における尺度得点の平均で上記両群の間に有意な差が見られたのは次の通りである。男子, 第Ⅰ尺度(職業の経済性重視) - Co 尺度, 第Ⅱ尺度(職業の社会的価値重視) - C, N 尺度, 第Ⅲ尺度(職業での自己実現重視) - D 尺度, 第Ⅳ尺度(職業義務感) - O 尺度, 女子, 第Ⅰ尺度 - G 尺度, 第Ⅱ尺度 - Co, Ag 尺度, 第Ⅲ尺度 - T 尺度, 第Ⅳ尺度 - D, I, N, O, G 尺度。一般に YG 各尺度得点平均は, 第Ⅰ, Ⅱ尺度では高得点者群に高く, 第Ⅲ, Ⅳ尺度では低得点者群に高いという結果が得られた。

644 職業選定過程に関する一研究

○樋口伸吾・西沢晴代(東北大学)

われわれはさきに男子にあつては生計の維持という強力な動因のもとに, 選択の自由度が低いまま職業が決定せられていると述べた。今回は女子の職業選定に至る過程を保健婦・養護教諭を対象として追求する。それは彼女らが BC と異なる技術をもち独自の専門分野を形成し, また勤務継続の意志が非常に強いとみられるから, その調査が問題の追求により示唆を与えると考えたからである。対象は宮城県公衆衛生看護学校卒業生171名。うち質問紙に対する応答者143名, 被面接者37例を分析する。

質問紙法によると彼女たちの勤務継続意欲はきわめて強く未婚既婚あわせ58%が一生職業を続けると答え, 結婚の際やめるというものは7名に過ぎない。しかるに彼女たちが本職業を選んだ時期は高校卒業時24%, 看護学校2学年時においても47%に過ぎない。しかも看護学校に看護婦になるつもりで入ったものはわずか1名という状態である。そして質問紙法ならびに面接調査の結果は彼女たちの大部分もまた男子の場合と同じく経済的圧力のもとで選択の自由度の低いまま選職する過程を示す。

645, 646 大学入試における

調査書の検討(第1報告)

① 塩田芳久 ② 三輪弘道
続 有恒・村上英治・江見佳俊
生田博之・鈴木康平(名古屋大学)

1. 大学入試における調査書は, 学力検査や健康診断とともに可否の判定資料として重視される建前になっている。しかるに, 実情は必ずしもそうではない。そこで, 現状における調査書に若干の観点から検討を加え, 妥当と考えられる活用法について考察し, およそ次のような試案を得ることができた。

(1) 学力検査の総合成績で同等と認められる範囲を推定し, その範囲内のものの優劣を調査書資料によつて推定する。

(2) 上記の調査書資料による判定の基準は, 次の1から4までになる。

第1基準——高校最終学年の全教科・科目の平均成績

第2基準——高校3か年間の5教科(入試科目)の平均成績

第3基準——高校3か年間の5教科の成績の変動の型

第4基準——高校3か年間の欠席日数

(3) 以上の基準は, 併列的に用いるのではなく, 系列的に順次適用する建前とする。

2. 全志願者の中からランダムに500名を抽出して, 次の5点の調査書資料を整理した。①高校最終学年の全教科・科目の平均成績 ②高校3か年間の教科別の平均成績 ③高校3か年間の教科別の成績変動 ④学習成績概評 ⑤高校3か年間の欠席日数。その結果, たとえば④のように信憑性に欠ける項目もあり, 今後調査書の記入様式の改善, 更に記載事項の構成など検討すべき問題のあることがわかった。

しかし, 従来調査書が活用されない理由の1つであるいわゆる学校差の問題も, 有名校とその他にわけて整理した結果, 必ずしも両者の間に有意な差を認めることはできなかった。また, 調査書の活用をすすめていくうえ